

# 平成28年度認定日本遺産 総括評価・継続審査結果

STORY #021

会津の三十三観音めぐり  
～巡礼を通して観た往時の会津の文化～

## I. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「観光客入込み数」について、目標を達成している。</li> <li>■ 「周遊効果」について、概ね目標を達成している。</li> </ul>
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」について、目標を達成している。</li> </ul>
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「日本遺産の商品開発数」について、目標を達成している。</li> </ul>
(4) その他	可	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「構成文化財の数」及び「観光入込数」について、目標を達成している。</li> </ul>
総合評価	可	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 全体として概ね目標を達成している。</li> </ul>

## II. 取組内容に関する評価

		重点事項 評価結果	評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	不可	■ 組織体制が明確ではなく、具体化する必要がある。また、組織整備に関する適切な指標の設定が望まれる。
(2) 戦略立案	個別評価		不可	■ 行政計画・構想への日本遺産の位置づけは一定程度進められているものの、一部位置づけられない地域がある。また、戦略立案に関する適切な指標の設定が望まれる。
(3) 人材育成	個別評価		不可	■ トータルコーディネーターができる地域コーディネーターの育成など、人材育成に向けた取組のさらなる強化が望まれる。また、人材育成に関する適切な指標の設定が望まれる。
(4) 整備	個別評価	可	不可	■ 観光案内板の維持管理だけでなく、多言語案内板等の整備など、整備に向けた取組のさらなる強化が望まれる。また、整備に関する適切な指標の設定が望まれる。
(5) 観光事業化	個別評価	可	可	■ 日本遺産のストーリーに基づく旅行商品やコンテンツの造成に取り組むなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図るための観光事業化に必要な取組が概ね実施できている。
(6) 普及啓発	個別評価		不可	■ 地域住民への普及啓発などの取組が進められているものの、出前講座の内容改善等、普及啓発に向けた取組のさらなる強化が望まれる。また、普及啓発に関する適切な指標の設定が望まれる。
(7) 情報編集・発信	個別評価		可	■ ホームページ、SNSや首都圏イベントなどの多様なチャネルを活用した情報発信を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図るための情報発信に必要な取組が概ね実施できている。
総合評価			不可	■ 一部評価項目について、取組内容のさらなる強化や、適切な評価指標の設定が望まれる。

# 日本遺産を通じた地域活性化計画 評価概要

	評価	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ かつて「仏都」そして現在は「極上の会津」プロジェクトを展開しているが、これらの事業の中に日本遺産ストーリー（会津三十三観音）がどのように位置づけられ、事業化されているのかが今一つ見えないため、具体化が求められる。</li> <li>■ シリアル型17市町村がすべて参画している「会津遺産カード」は、日本遺産のストーリーを伝える上で、広域かつ大都市から離れ大きな集客が見込めない地域においては、良い取組だと思われる。ただし、取組が惰性的にならないよう、地域で議論して毎年工夫を重ねていく必要がある。</li> </ul>
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 企画・運営の中心となる事業部会も行政で構成されているため、民間事業者や各寺院の発想や意見が企画に反映されやすい体制づくりが必要である。</li> <li>■ 広域にわたる三十三観音を繋ぎ、来訪者が巡るための魅力的なストーリーとこれらを体感できる事業の再構築を図ることが必要である。</li> <li>■ 構成文化財の多くが地域住民の人的・金銭的負担で維持管理されているため、今後の維持に向けた持続可能な財源確保の仕組み構築が必要である。</li> </ul>
総合評価	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 新しい地域活性化計画では課題に対する計画が一定程度記載されており、その実践と成果を期待したいが、これまでの取組や課題を再整理し、日本遺産のストーリーと資源特性を意識して取り組むとともに、実効力ある体制について更なる検討が必要である。</li> <li>■ 会津三十三観音を構成する各寺院の関係者が日本遺産のストーリーを十分に理解し、それぞれにおいてストーリー等の紹介を行えるような体制の構築が望まれる。</li> </ul>
評価結果	認定継続（条件付）	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域活性化計画及びコメント内容について、6年間着実に実行されることにする。特に、①シリアル型の日本遺産として構成自治体17市町村の連携を深めて実効性のある体制を整備すること、②地域活性化計画に記載の取組を実施する際は、日本遺産のストーリーと地域の資源特性を意識し、民間事業者の活力も取り入れながら取り組むこと、という2点に留意されたい。</li> <li>■ この実効性を担保するため、6年後の総括評価・継続審査において、他の認定地域（条件付）又は候補地域とともに相対評価を行い、上位の地域を日本遺産とする可能性があることを申し添える。</li> <li>■ なお、認定継続（条件付）となった地域は、毎年度、進捗状況を御報告いただくこととしているが、2回目以後の総括評価・継続審査の結果として条件を付すことになった地域については、計画期間の3年目において、現地確認を実施する可能性があることを申し添える。</li> </ul>

# 平成28年度認定日本遺産 総括評価・継続審査結果

STORY #028

木曽路はすべて山の中  
～ 山を守り 山に生きる ～

## I. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「外国人観光客数」について目標を達成している。</li> <li>■ 「観光客入込み数」について目標を達成していない。</li> </ul>
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」について、目標を達成している。</li> </ul>
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「日本遺産のためのふるさと納税額」及び「日本遺産関連で開発された商品・サービス数」について、目標を達成している。</li> </ul>
(4) その他	—	—
総合評価	可	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 全体として概ね目標を達成している。</li> </ul>

## II. 取組内容に関する評価

		重点事項 評価結果	評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	不可	■ 活性化委員会や活用検討部会を開催しているものの、組織の自立自走に向けた財源確保や関連自治体間、民間事業者との連携強化が望まれる。
(2) 戦略立案	個別評価		不可	■ 行政計画・構想への日本遺産の位置づけは一定程度進められているものの、一部位置づけられない地域がある。また、戦略立案に関する適切な指標の設定が望まれる。
(3) 人材育成	個別評価		不可	■ ボランティアガイドの養成やフィールドワーク等が実施されているが、取組数が少ないことに加え、トータルコーディネートができる地域コーディネーターや地域プレイヤーの育成など、人材育成に係る取組のさらなる強化が望まれる。
(4) 整備	個別評価	可	不可	■ 構成文化財の継承に向けた修理・修繕等の取組は行われているものの、それ以外の取組はHPやパンフレットの作成に留まっており、整備に係る取組のさらなる強化が望まれる。また、整備に関する適切な指標の設定が望まれる。
(5) 観光事業化	個別評価	不可	不可	■ 直近3年間において観光客入込み数や消費額は増加しているものの、モニターツアーの開催だけではない観光事業化に係る取組のさらなる強化が望まれる。
(6) 普及啓発	個別評価		不可	■ 日本遺産の認知度はあまり高くなく、普及啓発に向けた取組のさらなる強化が望まれる。
(7) 情報編集・発信	個別評価		不可	■ 公式ウェブサイトや公式SNS（インスタグラム）を開設しているものの、投稿頻度が少なく、継続的に更新するための仕組みづくり等、情報編集・発信に向けた取組のさらなる強化が望まれる。
総合評価			不可	■ 各評価指標において取組内容のさらなる強化や、適切な評価指標の設定等が望まれる。

# 日本遺産を通じた地域活性化計画 評価概要

	評価	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 計画内容については全体的に改善が見られ、多くの取組が盛り込まれている。</li> <li>■ 既に一定の集客がある地域でもあり、今後、妻籠宿や馬籠宿などの集客の核となっているエリアから木曽路全体を面向して活性化させていくための戦略や取組が課題である。</li> </ul>
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 多数の自治体が横並びで連携が取れていないような体制にならないよう、共通の目的に向かって地域全体で取り組んでいくことが望まれる。この点、木曽広域連合に「日本遺産木曽路推進室」を新設し、日本遺産を軸とした推進方針が示されたことは評価できる。今後「日本遺産木曽路推進室」並びに新たに設置される地域コーディネーターチームが機動力を持ち、面向的な取組として推進できるかに期待したい。</li> <li>■ 木曽広域連合・木曽観光連盟・木曽地域振興局による「木曽」エリアを中心とした取組だが、それぞれゲートウェイとなり得る塩尻や中津川と十分連携して取り組んでいくことが望まれる。</li> </ul>
総合評価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 組織体制の在り方を踏まえて地域課題を認識できており、地域活性化計画が改善されている点は評価できる。計画に記載の内容を着実に実行していくことが望まれる。</li> <li>■ 新たな地域活性化計画に沿った事業を期待したいが、事業全体の意思決定の仕組みの確立や地域全体をコーディネートしていく人材の確保が急務である。</li> <li>■ 森林文化と歴史的街道という魅力あるテーマが、地域住民の認知度向上もあわせて、十分に深化することが求められる。</li> <li>■ 現状、一定の集客や経済活性化は図られているが、日本遺産の取組や地域活性化計画の推進によって更なる活性化の推進を期待したい。</li> </ul>

評価結果	認定継続
------	------

# 令和元年度認定日本遺産 総括評価・継続審査結果

STORY #072

江戸時代の情緒に触れる絞りの産地  
～藍染が風にゆれる町 有松～

## I. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	不可	■ 「観光客入込み数」について、目標を達成していない。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」について、目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	不可	■ 「日本遺産の協力者数」について、目標を達成していない。
(4) その他	—	—
総合評価	不可	■ 全体として目標を達成しているとは言えない。

## II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ 組織内に一定数の民間事業者の参画が見られるとともに、ふるさと納税も一定確保しているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図るために組織整備に必要な取組が概ね実施できている。
(2) 戦略立案	個別評価	不可	■ 日本遺産の認知度が低く、戦略立案に係る取組の更なる強化が望まれる。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ 地域コーディネーターやプレイヤー数が一定程度あるほか、スキルアップのための研修会等、人材育成の基礎的な取組が行われているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図るための人材育成に必要な取組が概ね実施できている。
(4) 整備	個別評価	不可	■ ガイダンス施設や案内板の整備など基礎的な取り組みが行われているものの、整備に関する適切な指標の設定が望まれる。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ 観光入込み客数や日本遺産関連のツアーや体験コンテンツの造成等が一定程度あるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図るために観光事業化に必要な取組が概ね実施できている。
(6) 普及啓発	個別評価	可	■ 民間主導のイベントや小中学校での出前講座や地域で開催される催し等が一定程度あるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図るために普及啓発に必要な取組が概ね実施できている。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ ウェブサイトやSNSの閲覧数が一定数あることなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図るために情報編集・発信に必要な取組が概ね実施できている。
総合評価		可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。

# 日本遺産を通じた地域活性化計画 評価概要

	評価	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域活性化計画の大幅な修正により、ビジョン及びその実現に向けた取組が明確化された点が評価できる。</li> <li>■ 伝統的建造物保存地区事業を担当する市と町並み保存運動にかかわってきた住民の活動が上手く計画に反映されていないことが課題であったが、修正された地域活性化計画において大きく改善された点が評価できる。</li> <li>■ 街並み、有松絞り、山車行事を活かした文化観光のビジョンの検討を、官民一体的に推進することが課題である。</li> </ul>
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「有松未来創造株式会社」の設立とともに、地域外コンサルタントや鉄道業者の参加等により、具体的な空き家の修理・活用事業などを開始している点が評価できる。</li> <li>■ 地元の保存会等とも連携して、官民がより一層連携し地域一体となって推進していくため、「有松の観光をとりまとめる主体」の創出が望まれる。</li> </ul>
総合評価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域活性化計画が大きく改善された点は評価できる。</li> <li>■ 地元には、伝統的建造物保存地区での経験をベースとしたまちづくりのベテラン住民も存在し、企業（鉄道会社、まちづくり会社）も参加して、観光客誘導・空き家の観光施設への転換も進んでおり、今後に期待できる。</li> <li>■ 町並み保存活動に長く関わってきた地域リーダーと若い世代の意識・活動ギャップを感じていたが、修正された地域活性化計画では世代間ギャップを埋めるような活動が位置付けられた点は評価できる。高い意識を持ち取り組まれてきた地域の人々と自治体が一体となり、これまで以上に江戸時代の情緒に触れるための取組に期待したい。</li> <li>■ イベント期間以外でも多くの人々が訪れて楽しめるような企画や体験についても検討されたい。</li> </ul>

評価結果

認定継続

# 令和元年度認定日本遺産 総括評価・継続審査結果

STORY #073

海女(Ama)に出逢えるまち 鳥羽・志摩  
～素潜り漁に生きる女性たち～

## I. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	不可	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「経済効果」について、概ね目標を達成している。</li> <li>■ 「観光客入込み数」、「外国人観光客数」及び「宿泊者数」について、目標を達成していない。</li> </ul>
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「小学生における認知度」及び「出前講座等の回数」について、目標を達成している。</li> <li>■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」について、目標を達成していない。</li> </ul>
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	不可	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「日本遺産関連で開発された商品・サービス数」について、目標を達成している。</li> <li>■ 「日本遺産への協力団体数」及び「日本遺産のためのふるさと納税額や寄付額」について、目標を達成していない。</li> </ul>
(4) その他	可	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「海女ガイド人数」及び「海女関連の旅行商品数」について、目標を達成している。</li> </ul>
総合評価	不可	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 全体として目標を達成しているとは言えない。</li> </ul>

## II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ 協力団体数や構成自治体からの負担金等が一定程度あることなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図るための組織整備に必要な取組が概ね実施できている。
(2) 戦略立案	個別評価	不可	■ 日本遺産の認知度が大幅に下がっており、戦略立案に係る取組のさらなる強化が望まれる。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ 地域プレイヤー数が一定程度あるほか、海女ガイドを活用した活動を展開するなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図るための人材育成に必要な取組が概ね実施できている。
(4) 整備	個別評価	不可	■ 案内板整備や多言語パンフレットの作成など基礎的な取り組みが行われているものの、整備に関する適切な指標の設定が望まれる。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ 観光入込み客数や宿泊者数が一定程度あり、ツアー造成や観光拠点の整備等、基礎的な取組が行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図るための観光事業化に必要な取組が概ね実施できている。
(6) 普及啓発	個別評価	可	■ 日本遺産の認知度は下がっているものや民間主導のイベントや地域住民を対象とした講座等が行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図るための普及啓発に必要な取組が概ね実施できている。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ ウェブサイトの整備数やサイトの閲覧数が一定数あることなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図るための情報編集・発信に必要な取組が概ね実施できている。
総合評価		可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。

# 日本遺産を通じた地域活性化計画 評価概要

	評価	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域活性化計画について全体的な改善がみられ、ビジョンやその実現に向けた取組について一定のレベルにある点は評価できる。</li> <li>■ 海女文化継承のための一つの方策として、海の観光などをもう少し具体的に整備することが望まれる。</li> <li>■ 漁獲量減少及び海女の高齢化・減少が基底にあるが、「海女振興協議会」（農林水産課主導）で新たな漁業振興計画の下に対応が図られている点は評価できる。</li> </ul>
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 組織体制について改善は見られるが、複雑なため実効性に不安が残る。ストーリーのテーマである「海女」の立場や意見が尊重される体制が求められる。また、推進体制（ワーキンググループ）を3年かけて構築するスピード感で良いか、改めて検討されたい。</li> <li>■ 海女文化の持続性担保に向けて自治体の強い関与が求められる。</li> <li>■ 資源を守るだけではなく活かすこと、海女の活動継続のため、地域DMOや民間企業等における「海女小屋」運営や海女ツーリズムの振興、相差地区などを中心とした漁村観光の拠点整備により、旅館・カフェ・土産物店などの生業の再生と海女の働き場を確保するなどの施策がなされている点が評価できる。</li> </ul>
総合評価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 全体として地域活性化計画の内容は納得感がある一方で、組織体制の整備に課題があるため、実効性のある体制を整えて推進することに期待したい。</li> <li>■ 日本遺産のストーリーの基底をなす地域漁業や漁村の活性化、海女漁の再生と維持が基本であり、そのための再生計画（農林水産部署）が策定・実施がなされているとともに、肝心の海女の生業の維持や集落の活性化は観光を通じて一定程度成功しており、今後の活動に期待したい。</li> <li>■ 海女文化という、海産資源の多様な活用の歴史を保全・継承していくためには、志摩地域全域の海文化との一体的な取組が求められる。</li> <li>■ 日本遺産としての「認知度の向上」に向けた取組や体験イベントが少ないように見受けられるため、検討されたい。</li> </ul>

評価結果	認定継続
------	------

# 令和元年度認定日本遺産 総括評価・継続審査結果

STORY #074

1300年つづく日本の終活の旅  
～西国三十三所観音巡礼～

## I. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「観光客入込み数」及び「外国人観光客数」について、目標を達成している。</li> </ul>
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「スペシャルサイト・コンテンツの運用」及び「SNSによる情報発信のいいね数」について、目標を概ね達成している。</li> <li>■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」について、目標を達成していない。</li> </ul>
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	不可	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「日本遺産への協力団体数」について、目標を達成していない。</li> </ul>
(4) その他	可	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「西国先達昇補者数」について、目標を達成している。</li> </ul>
総合評価	可	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 全体として概ね目標を達成している。</li> </ul>

## II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ 日本遺産地域活性化委員会が存在し、一定数の参画団体数があるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図るための組織整備に必要な取組が概ね実施できている。
(2) 戦略立案	個別評価	可	■ 認知度が一定程度あるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図るための組織整備に必要な取組が概ね実施できている。
(3) 人材育成	個別評価	不可	■ 地域プレイヤーは一定数いるが、地域コーディネーターが不在であり、人材育成に係る取組のさらなる強化が望まれる。
(4) 整備	個別評価	可	■ 4か国語案内板の設置や、整備状況の満足度が一定程度あるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図るための整備に必要な取組が概ね実施できている。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ 巡礼ツアーの造成や札所寺院の観光入込み客数が一定程度あるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図るための観光事業化に必要な取組が概ね実施できている。
(6) 普及啓発	個別評価	可	■ 学習体験の経験生徒数や認知度が一定程度あるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図るための普及啓発に必要な取組が概ね実施できている。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ ウェブサイトの閲覧数やエンゲージメント数が一定数あることなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図るための情報編集・発信に必要な取組が概ね実施できている。
総合評価		可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。

## 日本遺産を通じた地域活性化計画 評価概要

	評価	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 全体的に計画の改善がみられず、ビジョンやその実現に向けた取組が曖昧であり、組織体制の確立、組織自立・自走のための取組や保存と活用の好循環の創出に向けた取組についても具体性がない点が課題である。</li> <li>■ 四国八十八ヶ所霊場などとは異なり、著名な大寺院に来訪者が大きく偏っているため、西国三十三所本来の日本遺産のストーリーを活かす活動ビジョンと戦略の再構築が必要である。</li> <li>■ 日本最古の巡礼道「西国三十三所」の魅力を発信するための具体的方策をもう少し吟味すべきであり、熱心な寺院任せではない地域活性化を模索することが求められる。</li> </ul>
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 組織体制にある「有志チーム」の構成員や活動内容の具体像・目標値・協力団体との関係性が不明確であり、行政の関与や地域のまちづくりとの接点も見えない点が課題である。</li> <li>■ 官民連携が不十分であり、広域にまたがる難しさがあるにせよ、ストーリーの認定地域全体で連携を取ることを検討されたい。具体的には、幹事である観音正寺や石山寺など、滋賀県を中心とした一部寺院の活動は活発だが、その活動は全体に波及しておらず、また行政側の支援・関与もほとんどなく、結果的に活動が停滞している点が課題である。</li> </ul>
総合評価	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 札所会の努力は評価したいが、2府5県での連携の難しさを乗り越えるビジョン・体制が依然として示されておらず、持続可能性に疑問がある。寺院間の連携、行政等の支援など、改めて推進体制の再構築が必要である。</li> <li>■ 札所会は熱心であり、それに賛同して参画する寺院を継続的に増やしていく方針で良いが、行政の積極的な関与がほとんどないことが課題であり、札所会と行政の間で今後の在り方を十分に協議する必要がある。</li> <li>■ 地域との繋がりが生まれている寺院の好事例の波及を促す組織づくりである、「有志チーム」の詳細が具体化されて、地域と連携した協議会が稼働されることを期待したい。</li> </ul>
評価結果	認定継続（条件付）	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域活性化計画及びコメント内容について、3年間着実に実行されることにする。特に、シリアル型の日本遺産として、一部寺院だけでなく、各寺院・構成自治体が連携しつつ、地域一体となって取り組まれるよう留意されたい。</li> <li>■ この実効性を担保するため、3年後の総括評価・継続審査において、他の認定地域（条件付）又は候補地域とともに相対評価を行い、上位の地域を日本遺産とする可能性があることを申し添える。</li> </ul>

# 令和元年度認定日本遺産 総括評価・継続審査結果

STORY #081

藍のふるさと 阿波  
～日本中を染め上げた至高の青を訪ねて～

## I. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「外国人観光客数」について目標を達成している。</li> <li>■ 「観光客入込み数」について目標を達成していない。</li> </ul>
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」について、目標を達成している。</li> <li>■ 「日本遺産の知名度」について、概ね目標を達成している。</li> </ul>
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「日本遺産への協力者数」について、目標を達成している。</li> </ul>
(4) その他	不可	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「藍産業の活性化」について、目標を達成していない。</li> </ul>
総合評価	可	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 全体として概ね目標を達成している。</li> </ul>

## II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ 協力団体数やサポーター数が一定程度確保されているほか、サポーター養成講座等も実施しているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図るための組織整備に必要な取組が概ね実施できている。
(2) 戦略立案	個別評価	不可	■ 行政計画・構想への日本遺産の位置づけは一定程度進められているものの、一部位置づけられていない地域がある。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ 地域プレイヤーが一定数存在しているほか、サポーター組織の設立や、ガイド人材育成に向けた連携事等を実施しているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図るための人材育成に必要な取組が概ね実施できている。
(4) 整備	個別評価	可	■ 各構成文化財でデザインを統一した解説案内板設置やパンフレット多言語化などの取組が進められているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図るための整備に必要な取組が概ね実施できている。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ ストーリーに関連したツアー造成やインバウンド向けの体験事業を実施しているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図るための観光事業化に必要な取組が概ね実施できている。
(6) 普及啓発	個別評価	可	■ 小中学生を中心とした地域学習への取組が盛んに行われており、また、民間主導のイベント開催数も一定程度あるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図るための普及啓発に必要な取組が概ね実施できている。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ WEBサイトやSNSなどの基礎的な情報発信基盤を整備し、一定の運用が行われているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図るための情報編集・発信に必要な取組が概ね実施できている。
総合評価		可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。

# 日本遺産を通じた地域活性化計画 評価概要

	評価	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ビジョンとその実現に向けた方策が具体化されており、文化財の活用に繋げていくことを意識した改善が随所に確認できる点が評価できる。</li> <li>■ 「藍」を後世までどのように継承していくのか、計画ではその意義や調査研究上の課題・事業が記載されているが、今後、活用に係る事業の実現方法などにもう少し踏み込んだ検討をされたい。</li> <li>■ 藍の研究における産官学の協力体制は期待できるが、それを地域活性化にどう活かすかが課題。</li> <li>■ シリアル型であるが、自治体間で取組や意識に差が大きく、連携した取組が見られない点が課題である。</li> </ul>
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 複数自治体や官民連携した一体的な取組が不十分であるとともに、シリアル型としてのメリットを十分に活かしきれていない。</li> <li>■ 地域活性化計画について、全体的な改善がみられるものの、中核となる藍住町以外の役割分担、特に実際の集客拠点となる自治体の関与が曖昧なままである点に不安が残る。また、産官学の協議会の体制自体は望ましいが、実質的な連携を深めていく必要がある。</li> <li>■ ビジョンはよく整理されているが、これらを実現する具体的な事業アクションプランがまだ曖昧である。観光集客の拠点となる自治体の取組との連携を強化し、吉野川流域圏全体を見据えた文化観光推進法地域計画のような視点で、エリア全体の事業計画とその連携を進めることを検討されたい。</li> </ul>
総合評価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 新たな地域活性化計画は非常に意欲的な記載がなされているため、計画が3年間でどの程度達成されるか期待したい。</li> <li>■ 産官学連携の構想は、体制整備状況の実態と乖離が大きく実効性に乏しいため、シリアル型の在り方について大きな課題が残る。本計画を踏まえて、産官学の連携体制、市町村ごとの役割分担を整えて、活用への道筋をつけることを期待したい。</li> <li>■ 徳島の藍は原料（菜）の産地であり、その富が地域の文化（阿波踊り・人形浄瑠璃等）の源泉に繋がるストーリーだが、藍（菜）はいまや日本全国の藍染や製品の原点である。狭く産地（徳島）に限定せず、全国各地や海外との交流と産業振興・観光を通じた、ダイナミックな事業化も将来的には検討されたい。</li> </ul>
評価結果	認定継続	